

党長野県第2選挙区支部長

務台 俊介(55)



長野県安曇野市穂高地区でNEDO(新エネルギー・産業技術総合開発機構)の委託研究業務として「先進型高効率乾式メタン発酵システム実験事業」が行われていま

このシステムは家庭系、事業系ごみからバイオマスを分別収集し、それに庭木などの剪定枝を加え、さらに収集バイオマスを粉砕機により40ミ以下の大きさに破碎し、乾式メタン発酵槽に投入。微生物の働きによってメタンガスを発生させ、そのガスを

貯留し、ガスエンジン発電装置により電力供給を行い、メタン発酵後に出る汚泥も固形燃料化し、助燃剤として焼却炉で利用するものです。実験施設は実用の可能性を実証するものであり、規模はそれほど大きくないものの、栗田工業などの最新のバイオエネルギー発生のノウハウを組み込んだシステムです。平成24年度で実証実験は終了し、実用化に向けての検証が行われ、実験施設自体は解体し更地に戻すことになっています。

エネルギー地産地消の取り組み

エネルギー源を電力活用することにより、日本経済にとって一石二鳥の画期的な取り組みとなります。克服が難しい原子力発電の課題が浮き彫りになり、それに代替する火力発電用の原油や天然ガスの輸入がわが国の国際競争力に大きな障害となりつつある中で、地域社会にあるエネルギー源を有効に活用する営

みは大いに注目に値します。一方で、従来活用できなかった褐炭などの低品質石炭を加工・液化する技術が進み、原油に代替する廉価の燃料として火力発電所で活用可能になっています。こうした手つかずの原材料を資源化する技術が進めば、エネルギー供給が多様化し、エネルギー供給のリスク分散にもつながっていきます。私の身近な地域でいえば、長野県筑北村は、その昔、石炭産出地域でした。昔を良く知る地域の古者からは、当時は石炭景気で沸いたという話も聞きます。科学技術の発達により一昔前の石炭資源を現代に蘇らせることも可能です。

生ごみ、紙ごみのメタンガス発電

今、民主党政

府は、政策の停滞が目に見え、長期にわたるエネルギー政策の提示をできていません。結果

として、再生可能エネルギーや在来エネルギー源の利活用が大きく踏み込む体制ができていません。政府が早期にエネルギー政策の長期ビジョンを作成し、官民を挙げて各地域に賦存するエネルギー源探索とその利活用に向けて全力を挙げて取り組めば、原発に代わる

また切り捨てるだけの政策ばかりです。このままでは、地方は切り捨てられる、地方に混乱をもたらすばかりで、われわれの故郷も破壊されてしまいます。政治は一部の企業や金持ちのためでなく、地方の生活に困っている人のためにあるものと信じています。政治は都会の人たちの生活を支えるためだけにあるのではなく、不便な地方に生きる人でも住みやすい町にしているためにあると信じています。政治は、地方の人に絶望を与えないで、夢と希望を与えるためにあると信じています。



生坂村の村民運動会に参加した、むたい俊介支部長

エネルギー確保の道は必ず開かれます。政府がもたついている間に、全国の自治体の中には、自らの地域に備わっている多種多様なエネルギー源を探索しその利活用について積極的に検討するところが出始めていますが、次期「政権交代」により、政府がエネルギーの地産地消を強力に進める強力な体制を構築しなければなりません。

私の主張

私は、昭和55年、公務員の父親、教師の母親のもと、群馬県伊勢崎市生まれ、地元伊勢崎市宮郷小学校、宮郷中学校に通いました。

私の少年時代はどこにいてもいる子供で、勉強も好きではなく、ずば抜けて勉強ができたということもありません。

ただ、私は、子供の時から人一倍正義感だけは強く、いじめや仲間はずれにされている子供と普通に話し、そういつたことを見過ごすことができない子供でした。



井野 俊郎(32)

党群馬県第2選挙区支部長

正直者が報われる社会へ 地方を守り、地方から国政を変えていく。

私の正義感、成長するにつれても失われることもなく、弁護士として常に正義を基本として、活動してまいりました。会社に理由無く一方的に解雇されたりする人を弁護していく中、正義感のままますます強くなっている、この社会の理不尽さや矛盾を正したい、一生懸命頑張っている人が報われる社会にしたいと思うようになりました。確かに、私に

そういった正義感が無く、自分だけが良ければよいと思っていれば、もっと楽に生きていき、今でも弁護士だけをしていたかも知れません。

しかし、私は、自身の正義感からそういった理不尽な社会を見通すことはできません。民主党政による政権交代から既に3年弱が経過します。しかしながら、民主党政による様々な政策は、経済を回復させることはできず、また、地方には混乱ばかりをもたらしています。普天間問題、八ッ場ダム問題、環太平洋経済連携協定(TPP)問題、原発問題などこれらはいずれも地方に混乱をもたら

政治は一部の企業や金持ちのためでなく、地方の生活に困っている人のためにあるものと信じています。政治は都会の人たちの生活を支えるためだけにあるのではなく、不便な地方に生きる人でも住みやすい町にしているためにあると信じています。政治は、地方の人に絶望を与えないで、夢と希望を与えるためにあると信じています。



党群馬県連大会で次期衆院選での必勝の決意を述べる井野俊郎支部長

井野 俊郎 (いの・としろう) 昭和55年1月8日群馬県伊勢崎市生まれ。明治大学法学部卒業。平成19年に弁護士、22年から地元伊勢崎市に法律事務所を開設。同年伊勢崎市議会議員に初当選。以来、市民が生活しやすい街づくりのための市政への要望、法律相談など受け活動している。現在は党群馬県第2選挙区支部長。政治理念「高き屋にのぼりて見れば 煙たつ 民の籠(かまど)は 賑わいにけり」。

務台 俊介 (むたい・しゅんすけ) 昭和31年長野県安曇野市(旧三郷村)生まれ、大町市・旧豊科町で育つ。松本深志高校、東大法学部卒業。自治省(現・総務省)入省、地方分権推進委員会参事官、消防庁防災課長、総務省調整課長、自治体国際化協会ロンドン事務所長。この間武蔵大学・信州大学非常勤講師、関西学院大学客員研究員。平成20年党長野県第2選挙区支部長、21年衆院選長野2区に初挑戦。22年神奈川大学法学部教授。